

[調査会 NEWS 503](19.5.7)

データの一部変更

高敬美・剛姉弟は先月事実上の政府認定拉致被害者になりましたが、記者会見の折、1000番台リストの数から抜いていませんでした。これは当然除外すべきですので、あらためて次のように数を発表いたします。

特定失踪者リスト集計（平成19年5月7日現在）

現時点での公開者	259名
・うち1000番台リスト	33名（35名マイナス高姉弟）
・うち0番台リスト	226名
これまで公開した人（第1次～32次）	271名
・うち国内での消息が確認された人	9名（うち1名死亡）
・うち政府認定された人（警察断定を含む）	3名（松本京子さん・高姉弟）
非公開者	約200名
非公開者で国内での消息が確認された人	11名（うち1名死亡）
現時点での特定失踪者総数	約460名

（参考情報）戦略情報研究所講演会

戦略情報研究所では下記の講演会を行います。奮ってご参加下さい。なお、今回は初めての試みとして(株)Net Liveのご協力をいただき、インターネットでの生中継を行う予定です。遠距離等で参加できないかたはそちらをご覧ください（詳しくは後日お知らせします）。

日時 5月25日（金）18:30～20:30

会場 UIゼンセン会館2階会議室（千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549）

市ヶ谷駅下車3分 日本棋院斜向い（地図は下記をご覧ください）。

<http://www.uizensen.or.jp/doc/uizensen/access.html>

テーマ 拉致問題解決に何が必要か、何が足りないのか-----基本的枠組みの提言-----

講師

荒木和博（調査会代表・戦略情報研究所代表）

「安全保障面から見た拉致問題解決のための提案」

真鍋貞樹（調査会専務理事・戦略情報研究所専務）

「拉致問題解決への行政・立法機構の障害とその克服のための提案」

各々30分程度の講演の後、参加された皆様との意見交換を行う予定です。

参加費 2000円（戦略情報研究所会員の方はお送りした講演会参加券がご利用になれます。

参加券がない場合は一般参加費を頂戴します）

予約等はありません。直接会場においで下さい。

[調査会 NEWS 504] (19.5.11)

訂正

前号でお知らせしたデータの一部が誤っておりました。再度正しいものをお送りします。ご迷惑をおかけします。

特定失踪者リスト集計 (平成 19 年 5 月 7 日現在)

現時点での公開者	260 名
・うち 1000 番台リスト	33 名 (35 名マイナス高姉弟)
・うち 0 番台リスト	227 名
これまで公開した人 (第 1 次 ~ 32 次)	272 名
・うち国内での消息が確認された人	9 名 (うち 1 名死亡)
・うち政府認定された人 (警察断定を含む)	3 名 (松本京子さん・高姉弟)
非公開者	約 200 名
非公開者で国内での消息が確認された人	11 名 (うち 1 名死亡)
現時点での特定失踪者総数	約 460 名

(参考情報) 戦略情報研究所講演会

戦略情報研究所では下記の講演会を行います。奮ってご参加下さい。なお、今回は初めての試みとして(株)Net Live のご協力をいただき、インターネットでの生中継を行う予定です。遠距離等で参加できないかたはそちらをご覧ください(詳しくは後日お知らせします)。

日 時 5 月 25 日 (金) 18:30 ~ 20:30

会 場 UIゼンセン会館 2 階会議室 (千代田区九段南 4-8-16 tel03-3288-3549)

市ヶ谷駅下車 3 分 日本棋院斜向い (地図は下記をご覧ください)

<http://www.uizensen.or.jp/doc/uizensen/access.html>

テーマ 拉致問題解決に何が必要か、何が足りないのか-----基本的枠組みの提言-----

講師

荒木和博 (調査会代表・戦略情報研究所代表)

「安全保障面から見た拉致問題解決のための提案」

真鍋貞樹 (調査会専務理事・戦略情報研究所専務)

「拉致問題解決への行政・立法機構の障害とその克服のための提案」

各々 30 分程度の講演の後、参加された皆様との意見交換を行う予定です。

参加費 2000 円 (戦略情報研究所会員の方はお送りした講演会参加券がご利用になれます。

参加券がない場合は一般参加費を頂戴します)

予約等はありません。直接会場においで下さい。

[調査会 NEWS 505] (19.5.14)

定例記者会見のお知らせ

報道関係者各位

5月の定例記者会見は次の通り行います。ご多忙中恐縮ですが対応方よろしくお願い申し上げます。

- 1、日時 5月23日(水) 14:00 ~
- 2、場所 調査会事務所(3階)
- 3、内容 理事会の報告(今後の活動について)
その他
(1000番台、ゼロ番台の発表については検討中です。おってご連絡します)

理事会は21日月曜に開催されます。その報告をこの会見でお知らせする予定です。

[調査会 NEWS 506](19.5.20)

戦略情報研究所講演会の生中継について

すでにお知らせしておりますが、25日に行われる戦略情報研究所主催講演会では(株)NetLive(砂川昌順代表取締役)のご協力により生中継されます。ご覧になるかたは開催時間にパソコンからネットライブのホームページ(www.netlive.ne.jp)にアクセスし、生中継というバナー表示をクリックすればご覧になれます。

<戦略情報研究所講演会>

日 時 5月25日(金) 18:30 ~ 20:30

中継は冒頭1時間、19:30までの荒木・真鍋の講演部分のみ

会 場 UIゼンセン会館2階会議室(千代田区九段南4-8-16 tel03-3288-3549)

市ヶ谷駅下車3分 日本棋院斜向い(地図は下記をご覧ください)

<http://www.uizensen.or.jp/doc/uizensen/access.html>

テーマ 拉致問題解決に何が必要か、何が足りないのか-----基本的枠組みの提言-----

講 師 荒木和博(調査会代表・戦略情報研究所代表)

「安全保障面から見た拉致問題解決のための提案」

真鍋貞樹(調査会専務理事・戦略情報研究所専務)

「拉致問題解決への行政・立法機構の障害とその克服のための提案」

各々30分程度の講演の後、参加された皆様との意見交換を行う予定です。

参加費 2000円(戦略情報研究所会員の方はお送りした講演会参加券がご利用になれます。

参加券がない場合は一般参加費を頂戴します)

予約等はありません。直接会場においで下さい。

[調査会 NEWS 507](19.5.23)

0 番台 新規公開リスト (第 33 次)

藤倉 紀代 (ふじくら・きよ 姉)

生年月日：昭和 42 年 4 月 29 日

性別：女

当時の年齢：12 歳

当時の身分：小学校 6 年生 (卒業直前)

身体的特徴 (当時)：身長 150cm 体重 38kg

痩せ形で面長

色が黒く、髪の毛を腰まで伸ばしていた。

失踪時の服装はフード付の紺色スモッグに白色セーター

藤倉 靖浩 (ふじくら・やすひろ 弟)

生年月日：昭和 44 年 3 月 13 日

性別：男

当時の年齢：11 歳

当時の身分：小学校 5 年生 (進級直前)

身体的特徴 (当時)：身長 140cm 体重 30kg

中肉で丸顔 色黒 坊主頭

失踪時の服装はプロ野球の阪急の帽子をかぶり紺色ビニールのヤッケに同色のジーパン、白ズック姿。

失踪年月日：昭和 55 年 3 月 29 日

失踪場所：広島県広島市南区

当時の居住地：広島県広島市南区

失踪の状況

失踪当日、母親はいつも通り夕刻 5 時か 6 時頃、子供たちの夕食を用意して自宅アパートから仕事に出かける。母親が深夜 (2 時ごろ) に帰宅すると、二人の姿がなかった。玄関には鍵がかかっており (鍵は子供たちも持っている)、母親の布団が敷かれ、夕食をとって食器が流しに運ばれているなど、いつもと変わった様子はなかった。

二人とも特別に何かを持ち出したような形跡はなく、服装も普段外出する時の服装。また所持金は小遣い程度。自分たちだけで遠出したことはなかった。また姉は失踪翌日に友達と遊ぶ約束を電話でしていた。離婚した父やその実家へも遊びに行っていたが、そこへも行っていない。当時警察は誘拐や事故などの線からも 200 人態勢で捜索を行ったが、全く手掛かりがなかった。

5月21日理事会について

調査会では5月21日に理事会を開催し、当面の基本方針などについて討議しました。以下は23日の記者会見で発表した内容です。

当面の基本方針(抜粋)

1、どうすれば拉致問題は解決できるか

(1) その基本方針

拉致問題の解決が「すべての拉致被害者の救出」であることは言うまでもないことだが、このためには政府のリストにも特定失踪者問題調査会のリストにもない拉致被害者を救出しなければならず、北朝鮮の現体制の好意を期待することが出来ない以上、体制を転換し、日本から自由に探しに行けるとともに、被害者が現地で声を上げられるようにしなければならない。これは同時に、日本人拉致問題の解決が、他国の拉致被害者の救出、在日朝鮮人帰国者及び日本人家族の人権改善、ひいては北朝鮮の人々の解放へとつながることを意味する。

そして、この問題は国家主権の侵害という側面と普遍的な人権の侵害という二つの側面があるから、その二つの側面を並行してアプローチする必要がある。いずれにしても、今日の生存は明日の生存を保障するものではない。拉致被害者救出は時間との闘いであり、今日の生存が明日の生存を保障するものではない。一日でも早く全ての拉致被害者を救出するため可能な手段をすべて動員しなければならない。

2、調査会の目的と今後の活動

(1) 目的の再確認

調査会の活動はすでに調査機関としての枠を越えているが、今回を機にその目的を「政府未認定者をはじめとする北朝鮮による拉致事件全般について調査するとともに、金正日体制の転換をめざす活動を含め可能な全ての手段を用いて被害者全員の帰国を実現する」ものとし、具体的救出を実現することをその目的に加える。ただし大衆運動的活動は救う会の活動とも重複するので必要最小限に留め、全国的運動組織の結成や支部の設置は行わない。

(2) 調査活動

従来通り国内での調査活動を継続し、公開者はゼロ番台リストとして発表、可能性の高いものは1000番台リストとして発表する他、マッピングリストの発表を続け、特に報道関係者の関心を惹起する。

(3) 失踪者家族への対応---仮称「しおかぜの集い(未認定拉致被害者救出のための全国集会)」の開催

全国の特定失踪者家族及び一般に呼びかけ、12月の北朝鮮人権週間中に特定失踪者版国民大集会を開催し、世論喚起をはかる。この集会のために、「しおかぜの集い実行委員会」を設け、特定失踪者問題調査会役員に加え特定失踪者家族の中から趣旨に賛同する家族にも実行委員を委嘱する。地方の集会については現地の要望や体制など状況を見て対応する。

(4)情報収集

現時点では直接北朝鮮に入れないため限界がある。個別に他のNGO、脱北者、マスコミ等と連携していく。脱北帰国者からの聞き取り、必要に応じてフォローも行う。

(5)情報注入

a)しおかぜ

周波数・時間・内容などを調整しながら今後も充実を進める。非常事態への対応の準備を行う。

b)バルーンプロジェクト

難民基金・守る会との連携により、常に日韓のNGOが連帯して活動できるようにする。独自の船舶チャーターによる風船を利用したビラ投下・ペットボトルを海流に乗せたビラ送付を計画する

(6)直接の救出

a)第三国への脱出と外務省との連携による身柄の確保

信頼できるエージェント及び活動拠点の確保をめざす

b)自衛隊による救出

外部からの世論醸成、自衛隊内部における態勢作りを求めていく。

(7)国際活動

a)国際的な人権問題として国内外のNGO等と連携し金正日体制を圧迫していく。

b)国連人権委強制的失踪に関する作業部会に1000番台リスト及びゼロ番台リスト失踪者について、家族の希望を確認の上届け出を行う。

(8)政府へのはたらきかけ

政府への姿勢は基本的に「建設的緊張関係」を維持し、具体的な要求及び必要な支援をする一方、問題のある活動はブレーキをかけていく。

(9)国会への働きかけ

a)拉致議連との定期的連携を持ち、質問・質問主意書などの具体的要望を行っていく

b)次の法制定・改正を求めていく

--支援法改正(対象を日本国籍保持者から日本縁故者へ)

--北朝鮮人権法の改正...日本版八木院(帰国拉致被害者及び脱北帰国者帰国者の定住支援施設)の設置など

--拉致情報を得るため司法取引を認める刑訴法改正

(10)北朝鮮の権力層の一部（反・非金正日グループ）との連携
情報収集の一過程として行うとともに、金平一・ポーランド大使ら政権外部の主要人物との連携を模索する。

役員

代表：荒木和博

専務理事：真鍋貞樹（家族支援委員会委員長兼任）

常務理事(50音順)：青木英実・恵谷治・岡田和典・川人博・妹原仁・杉野正治・
増元照明

理事(同)：斉藤純一・曾田英雄・中村実・北條正・三宅博・武藤政春・村尾建兒・
矢可部由紀・山下滋夫

監査：齋藤健兒

顧問：藤野義昭

今回の変更は兵本常務理事が退任、藤野常務理事が顧問就任。

訂正

ご迷惑をおかけしてすみませんが、2点訂正申し上げます。

1、「当面の基本方針(抜粋)」

前号(507号)で発表した「当面の基本方針(抜粋)」で1の(1)の中で「そして、この問題は国家主権の侵害という側面と普遍的人権の侵害という二つの側面があるから、その二つの側面を並行してアプローチする必要がある。いずれにしても、今日の生存は明日の生存を保障するものではない。拉致被害者救出は時間との闘いであり、今日の生存が明日の生存を保障するものではない。一日でも早く全ての拉致被害者を救出するため可能な手段をすべて動員しなければならない。」という部分がありますが、ご覧になってお分かりのように「今日の生存が明日の生存を保障するものではない」が重複しています。下記のように訂正いたします。

「そして、この問題は国家主権の侵害という側面と普遍的人権の侵害という二つの側面があるから、その二つの側面を並行してアプローチする必要がある。いずれにしても、今日の生存は明日の生存を保障するものではない。拉致被害者救出は時間との闘いであり、一日でも早く全ての拉致被害者を救出するため可能な手段をすべて動員しなければならない。」

2、公開者等の人数

昨日の記者会見で発表した人数に誤りがありました。正確には下記の通りです。

・現在公開している失踪者	261名
・うち1000番代リスト	33名
・0番代リスト	228名
・これまでに国内で確認された失踪者	9名(うち1死亡)
・認定ないし警察断定になった失踪者	3名
・これまでの公開者(1~33次)合計	273名

[調査会 NEWS 509] (19.5.27)

戦略情報研究所講演をオンデマンドで配信

先日(株)Net Liveのご協力で生中継をした戦略情報研究所の講演会「拉致問題解決に何が
必要か、何が足りないのか」(講師：調査会代表荒木及び専務理事真鍋)はNet Liveの
ホームページでオンデマンド配信されています。どなたでも、いつでもご覧になれるので
先日ご覧になっていない方はぜひご覧下さい。

特定失踪者に焦点をあてた本『消えた277人』が出版

このたび特定失踪者を含めた拉致問題を取り上げた『消えた277人』(毎日ワンス・
1300円+税)が出版されました。

拉致被害者および特定失踪者(公開者)277名全ての失踪等の状況、また短波放送「し
おかぜ」に寄せられたメッセージ(手紙・収録)全てを記載したものです。編集にあたっ
ては調査会も協力をさせていただきました。特定失踪者一人ひとりについて焦点を当てた
ものとしては初めての本です。

公開されている失踪者(4月上旬現在)のご家族には、すでに本を送らせていただいで
います。一般の書店でも発売されていますので、より多くの方に特定失踪者問題に対する
理解を深めてもらえればと期待しています(店頭がない場合は書店にご注文下さい)。

中国が...

荒木和博

今日のニュースで中国が拉致問題で日本に協力との報道がされていました。誠に結構、
と言いたいところですが、どこまで本気が、あまり信用できません。最近中国問題の専門
家である青木直人さんが中山補佐官の訪中について武大偉外務次官がニセ遺骨の話を「初
めて聞いた」などと言っていることを強く批判しており、CS放送「チャンネル桜」の座
談会などでも家族会の増元事務局長や横田拓也事務局次長に強く警戒を呼びかけていま
す。

結局カネで締め上げないと中国は協力しないというのが青木さんの説で、まさにその通
りだと思いますが、今回の中国側からの意向の表明は結構これが効果を上げたのではない
でしょうか。

風が吹けば桶屋が儲かる、ではありませんが、拉致問題が解決しなければODAはやめ
る。北京オリンピックも別のところでやるように働きかける、と言ったら、さらに中国は
動くかも知れません。国際関係は基本的に損得勘定であることはアメリカ相手でも同様で
すが、中国の場合は国家体制自体が異なるのですからなおのこと冷徹な判断が必要だと思
います。こんど中国の高官が「知らなかった」などと言ったら、そのときは中国に経済制
裁をするときかも知れません。